

cep

communication

・特集・

志プロジェクト／インターンシップ
実施報告

Mar.2026 vol. **68**
株式会社アピックス 社外報



経験を、かたちに。 *Report*



100 Years and Beyond

APIX

志プロジェクト2025 ～「働きやすい職場」とは何か？～

今年は3社の企業さまにご協力いただき、「働きやすさ」という言葉の本質に向き合いました。対話を重ねる中で、企業と学生の間にあるギャップの輪郭が見えてきました。



「働きやすい職場」とは何か？ — 企業取材を通じて見えた職場の本質

大阪経済大学 経営学部
ビジネス法学科
稲岡 大志 准教授



大阪経済大学 経営学部
経営学科
中村 信隆 講師

昨今、働きやすい職場づくりが重要な課題となっていますが、そもそも「働きやすい職場」が何なのかを理解しなければ、働きやすい職場づくりを進めていくことは難しくなります。例えば有給休暇取得率は働きやすい職場のパロメーターとされがちですが、では有給休暇取得率の低い職場＝働きにくい職場なのか。アットホームな職場は働きやすい職場なのか。社員への配慮がかえって社員の重荷になることはないか。そもそも働きやすい職場が本当に良い職場なのか。今回

の授業ではこういった根本的な問題を検討しました。取材させていただいた4社とも、職場を働きやすいものとするために、様々な思いで様々な取り組みを行っており、学生は取材を通してそれを知ることができ、非常に有意義な時間になったと思います。企業に対してドライな関係を求める学生も多く、一定の距離を保とうとする「リスペクト」の原理と、距離を縮めようとする「愛」の原理のはざまで、企業は社員との適切な距離感を慎重につかむ必要があるのかもしれない。

3社の企業様にご協力いただきました



【日本鏡板チーム】グループ活動をするにあたりリーダーの存在と主体性がどれほど重要なのか再確認する機会となった。この講義を通して数多くの学びを得たので就職活動等に活かしたい。



【アピックスチーム】企業取材を通して、社内の雰囲気などを良くすることが、とても奥が深く、難しいことだと感じた。企業のトップに立って社員のことを考え、企業の目標などを考えることの大変さを改めて知ることができた。

【NACLチーム】インタビューを通して、企業のホームページや数値だけではわからない「働きやすさ」があることを知った。社員から見た「働きやすさ」は実際に社員の方に直接話を伺わないとなかなかわからないと思う。

学生の声



【千房チーム】実際に企業の方々にインタビューをすることで、社長が考える「働きやすさ」と大学生の考える「働きやすさ」の違いや、心理的安全性を確保できる上司と部下の適切な距離感などが難しい点として実感させられました。

志プロジェクトとは

「志プロジェクト」は、大学・企業・金融機関による産学連携プロジェクトです。大学生が地域企業を訪問し、取材を通じて相互理解を深め、地域人材の育成を目指しています。大阪地区は2017年より開始され、2022年から大阪経済大学の「地域企業連携実習」として実施されています。

事務局より

学生と企業が共に学び、多様な視点の中で実践的な気づきと成長を育む取り組みです。共創から得られる成長を次代へ繋いでいきます。こうした学びの場を支えてくださる参加企業の皆様に、心より感謝申し上げます。
カスタマーリレーション部 大阪2G 大村 晴音

「未来の仲間と出会う5日間」 — インターンシップ実施レポート —

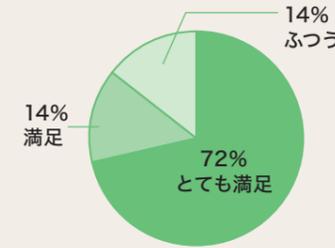


実際の業務体験に加え、社員との対話を通じて、仕事の現場や当社の考え方への理解を深めていただきました。

インターンシップの満足度調査

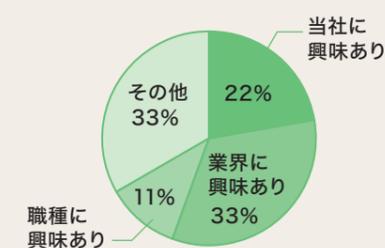
Q.1

インターンシップ全体として、どの程度満足していますか？



Q.2

インターンシップに参加した理由を教えてください。



Q.3

インターンシップ参加への期待は応えられましたか？



Q.4 インターンシップで、最も印象に残っている内容は何ですか。

インターンシップを通じて、BPO業務で求められる正確性と効率性、工程ごとの徹底した管理が信頼につながることを学びました。

業務体験で大学の学びが活かせるかもしれないと感じ、あまり慣れていないリモート会議にも参加できて良い機会になりました。

プロダクションの作業を体験し、資料作成から印刷物の確認まで実際に使用している機械を使ってできたことが嬉しかったです。



今回参加をしてみて、私が想像している以上に働くといったことには積極性や自主性が必要だということを感じました。

インターンシップ生からの感想

企業文化や具体的な業務フローへの理解はもちろん、社風や職場環境に至るまで、貴社に対する認識を多角的に深めることができました。



業務内容だけでなく、社会人としての考え方や姿勢についても学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。



アピックスサポートメンバーからインターンシップ生へ



積極的に参加する事で仕事や自身への理解が深まると思います。皆様の成長を少しでも支えられたら嬉しいです。

カスタマーリレーション部 大阪2G パル・カシオベ

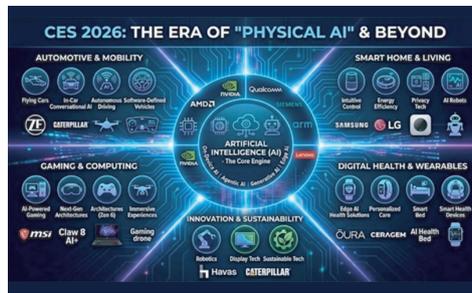
意欲的に取り組む姿勢に私も刺激を受けました。今回の経験をぜひ、次の一歩につなげていってください。

プロダクションマネジメント部 大阪1G 岩見 沙織





Level4の完全自動ロボタクシー「zoox」
※Las Vegas市街実装済み



AI everywhere 実装チャート



Vegas LOOP



フィジカルAIの実装 ～AIはどう業務や社会に組み込んだか？



代表取締役社長 河村 武敏

年初にもかかわらず、2026年1月6日(火)～9日(金)に米国ラスベガスで開催された世界最先端のテックショー「CES2026」を視察して参りました。昨今の「AI技術の実装」をベースに、各産業がどのようにサービスとして具現化しているかを検証するうえで、大変参考になる視察でしたのでエッセンスのみ報告します。

各ブースの詳細展示については別掲(下記)しますが、今回のCES2026の最大の特徴は、「フィジカルAIの実装」であり、AIが「主役」ではなく「前提条件」になったことです。生成AI、

エッジAI、データ活用は、どのホール・どの分野でも当然のように組み込まれており、「AIを使っているかどうか」はもはや評価軸ではなく、「AI everywhere」の触れ込み通りの展示会でした。

今回の展示はAIを「どう作るか」ではなく、「どう業務や社会に組み込んだか？」を示す展示であり、多くの企業が、AIエージェントを業務フローの中核に据え、意思決定・判断・予測を支援する形で実装していました。特に印象的だったのは、AIが人を置き換える存在としてではなく、人の判断速度と精度を高める補助的存在として設計さ

れていた点です。AI導入は実験段階を終え完全に「経営判断の領域」に入ったといえます。CESはもはや未来を予測する場ではなく、すでに始まっている未来を、確認し、比較し、意思決定する場となっているように思えました。CES2026は、その現在地を極めて具体的に示す展示会であり、とても有意義な視察でした。

余談ですが、LVCC各会場をトンネルで結ぶ「VEGAS LOOP」。トンネルの中をテスラのEVが走り回り、無料で各会場に運んでくれる。EVなので排気ガスの心配はなし。巨大な会場を効率よく回れるため、来場者の評判が非常に良い。ライドステーションやトンネルには七色のイルミネーションが輝き、演出された近未来感もまたCESならではの演出で印象的でした。

尚、詳細はこの紙面では伝えることはできず、「CES2026視察レポート」を掲載予定ですので、興味があればそちらを参照いただければ幸いです。

※JIIMA機関紙IM 2026年5・6月号に掲載予定(4月25日発刊予定)

<https://www.jiima.or.jp/im/>

CES2026開催概要

会期	2026年1月6日～9日
会場	米国・Las Vegas Convention Center (LVCC) ほか複数拠点
主な出展カテゴリ	AI、デジタルヘルス、モビリティ、スマートホーム、エイジテック ロボティクス、IoT/センサー、ライフスタイル、スタートアップほか
主な出展企業	エヌビディア、シーメンス、キャタピラー、LG、TCL、ハイセンス クアルコム、ジョンディア、アボット、AARPほか
出展企業数 来場者数 参加国数	約4,100社、約15万人、約150カ国

株式会社アピックス

本 社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2 TEL:06-6271-7291(代表)
東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F
BPOリンク大阪 〒542-0082 大阪市中央区島之内1-8-12 徳銀相産ビル3F
URL <http://www.apix.co.jp> E-mail info@apix.co.jp

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

※ この社外報は、Iridesse™ Production Press で出力しました。

当社の社外報は今号・過去号ともに
デジタルでもお楽しみいただけます
こちらのQRコードからぜひご覧ください

